

2021年12月7日『朝礼時法話～報告事項』

(1) 法話概略【介護の魅力子ども世代に伝える意義】

去る11月30日は湯田中学校3年生、12月1日は西和賀高校1年生の前で、介護の魅力を伝えるために、光寿苑やひなたぼっこでの実話をもとにしたお笑い寸劇を披露してきました。これは若い世代に、「介護の楽しさや豊かさを伝えたい…」という想いで始まった取り組みで、去年から実施されています。「介護おとぼけ座」と命名しまして、その関係団体は、西和賀町社会福祉協議会、清水苑(老人保健施設)、ぶなの園(特別養護老人ホーム)、西和賀町健康福祉課、そして光寿苑の5団体です。今年、光寿苑からはKさん(介護支援専門員)とRさん(介護リーダー)と私の3人が出向し、熱演して参りました。

その中で、「介護の3K」の「きつい、きたない、危険」というネガティブな言葉が世に出てしまい、そればかりがやたらと印象付けられて久しくなる訳ですが、その悪影響からか、子どもが興味を持ってブレーキを掛ける大人や学校の先生が多くいたのも事実あります。大人がそういう発信をするのは良くありません。子どもが自分で決められる社会の空気にしていきたい…そんな願いもあって、この時も「介護のポジティブ5K」を語りました。その時出された言葉を紹介します。

『か』… 感動 (一人一人の物語りがあり、それに関わり感動するから)

『き』… 絆 (人の最期に関わる仕事であり、その家族の深い繋がりに出逢うから)

『く』… 暮らしそのもの (肉体的な大変さや辛い事もあるけれど、それが生きる事であり、そこに一緒に暮らしていく醍醐味がある)

『け』… 結晶 (苦難を乗り越えて喜怒哀楽人生の結晶である)

『こ』… ココア (温かくて甘い飲み物は、帰宅願望や夜間落ち着かない方でも飲めば落ち着くし、心身ともに温めてくれるから)

いきなり言葉だけ聴いても伝わりにくいものがあると思いますが、当日は、お笑い劇を観た後のポジティブ5Kでしたので、温かい空気の中で次世代の人たちに介護の魅力が伝えられたのではないかなと感じながら戻って参りました。

ここで皆さんにお伝えしたいのは、家庭の中でも大人が発する言動は子どもにとって影響力が大きい場合が多々あります。介護の仕事についても、つついネガティブな事だけ伝えがちですが、そこでもう一步、“**大変なこともあるけれど、とっても楽しい事も沢山あるよ**”とポジティブに面も語って行って頂きたいのです。大人たちが子たちに残せる財産は、物事のポジティブな捉え方も一つあると考えます。仕事についてポジティブな事を語る事は、そのままよりよい町づくりに繋がると思うので、ぜひ、皆で次世代に向けて未来をポジティブに伝えていきましょう。

(2) 行事について

12月はクリスマスコンサート、1月はもちつき等、お年寄りの喜びとなる行事を企画していきたいと考えています。日時は現場のよき日取りを提案して頂きながら決めていきたいと思っています。

(3) 北上地方年末年始等交通安全運動参加について

任意ではありますが、グループ単位の参加となります。80日間安全に運転すれば表彰となるものですが、ぜひ、ユニット単位や部署単位で参加してみましよう。

【(1)(2) = 光寿会理事長、(3) = 総括課長】